

# 清水小サイエンスニュース!!

2016, 7, 12(火)  
**第12号**  
 久米島町立  
 清水小学校  
 理科新聞



雨の日には、  
 虫たちはどうしてる?

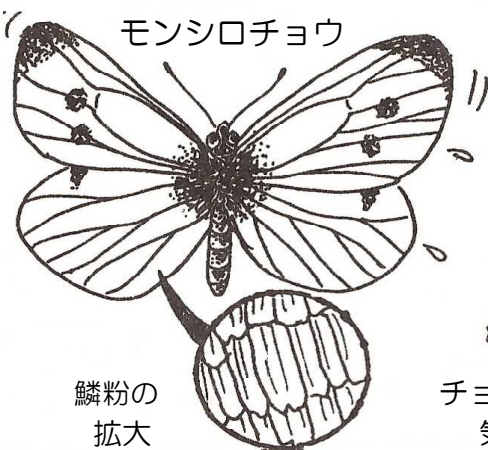
ときおり、強い雨の降るそとでは、こん虫たちはどのように過ごしているのでしょうか。こん虫にとっては、雨つぶもでかい水玉になるでしょうし、花びらをちらす風にも吹き飛ばされそうになることでしょう。でも、天気が回復すると姿を見せることから、ちゃんと生きていることがわかりますよね。

雨の日、チョウ達は葉のうらに羽をたたんで、ぶら下がるように止まっています。羽をそっと指でさわってもぬれていません。そのかわり指には、羽の粉(鱗粉・りんぷん)がつきます。チョウの体や羽は、鱗粉が屋根のかわらのように重なり合っておおっています。また、鱗粉がはげ落ちても、皮ふは防水がきいているので、ずぶぬれにはなりません。

幼虫のアオムシはどうでしょう。体の表面には、小さな毛がたくさん生えていて、水をはじくしくみになっています。でも、卵からかえったばかりの小さな幼虫は、おぼれたり、雨に打たれて死ぬものもいます。虫は口ではなく、体の横にある気門(きもん)で呼吸をしているので、体が水につかるとちっそくで死んでしまうのです。



オオゴマダラ



鱗粉の  
 拡大



チョウの幼虫  
 気門(空気が出入りして呼吸する)



(文責・スケッチ：玉村かおり)